

だよ り 美 術 館

contents

中右コレクション 幕末浮世絵アラカルト	[2~5]
大江戸の賑わい 北斎・広重・国貞・国芳らの世界	
イベント報告	[6]
福井県立美術館友の会	[7]
お知らせ・貸館情報	[7]
近隣美術館・博物館スケジュール	[8]
日本まんなか共和国	[8]

〈表紙・歌川国芳「みかけはこはいがとんだいい人だ」(部分)〉



「大江戸の賑わい」

北斎・広重・国貞・国芳らの世界

幕末浮世絵のリアルカルト

展覧会 中右瑛(なかう・えい)氏

江戸時代、庶民に深く愛され続けた浮世絵には、当時の人たちの美意識や好み色が濃く反映されています。なかでも1800年代以降の幕末期には、目まぐるしく変化する世の中や、繁栄を極めた町民文化を背景に、浮世絵はかつてないほどの盛り上がりを見せました。旅行ブームによる風景画の出現や、魔界小説・幽霊芝居に影響された妖怪・武者絵。幕府政治をテーマとした風刺画や、黒船来航に刺激された開国絵など、美人画と役者絵がほとんどであったそれまでの時代に比べて、バラエティあふれた様々な作品が数多く生まれました。現代でも人気の高い葛飾北斎や歌川広重・国貞・国芳といった絵師たちが腕をふるったのもこの時代です。

本展は、夏休み特別企画として開催するもので、浮世絵コレクターとして著名な中右瑛(なかう・えい)氏(国際浮世絵学会常任理事)の膨大なコレクションから、幕末期の浮世絵約150点を厳選して12のコーナーに分けて展示します。この夏、江戸の粋と奇想天外なアイデアあふれる浮世絵の世界をお楽しみ下さい。

会 期◆平成20年8月2日(土)―8月24日(日) ※会期中無休
開館時間◆午前9時―午後5時(金曜日は午後8時まで)

※入館はいずれも閉館30分前まで

観 覧 料◆一般800円、大・高生500円、小・中生300円

(団体30名以上は2割引) ※障害者手帳をお持ちの方は半額。

主 催◆福井県立美術館、(財)自治総合センター

【関連企画】

◆実 演 よみがえる北斎「神奈川沖浪裏」を摺る (於展示室、要チケット)

◎8月10日(日) 午前10時、午後2時より (実演時間約1時間30分)

葛飾北斎の名作「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」が、解説を交えた実演で現代によみがえります。その製作過程と摺師の技をお楽しみ下さい。
協力/アダチ伝統木版画技術保存財団

◆家族で楽しむ解説会 (午後2時より、於展示室、要チケット)

◎8月3日(日)、17日(日) 学芸員が展示作品を楽しくご紹介します。

旅行ブームが一般庶民にまで拡がると、各地の名所や風景への関心も高まり、名所絵や風景画が確立しました。葛飾北斎や歌川広重らが「富嶽三十六景」「東海道五拾三次」などの傑作を発表、浮世絵の主要ジャンルとして定着します。

旅どころ・富士模様、四季の名所、風景画



葛飾北斎 「富嶽三十六景 山下白雨」



歌川広重 「東海道五拾三次之内 庄野」

装いとお洒落・女ごころの美人画



歌川国貞「星の霜当世風俗 行灯」

役者絵と並んで浮世絵の主流を占めた画題が美人画です。幕末期の美人画はそれまでの上品で穏健なものから、時代の好みを反映して、退廃的な色香を前面に出した粋でアダな女性美を描き出しました。

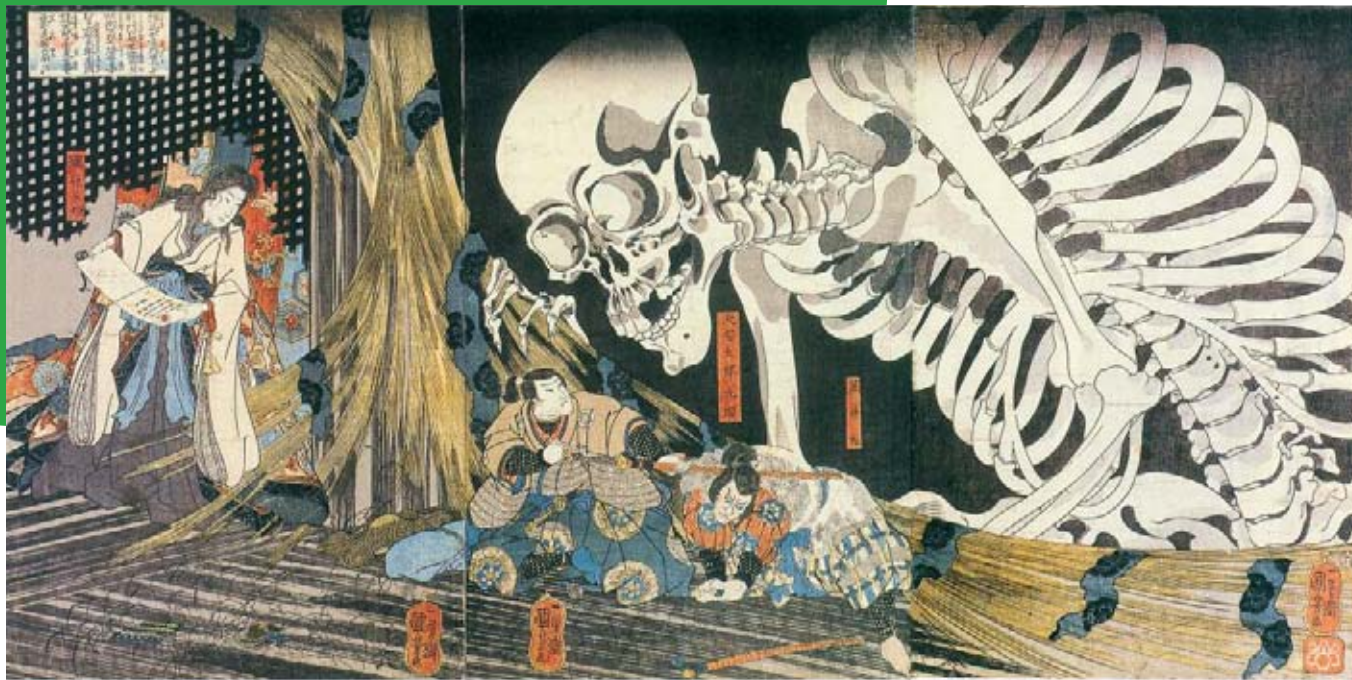
粋とダンディ・江戸の人気役者絵



歌川国貞「大当狂言の内 幅随長兵衛(松本幸四郎)」

文化文政期(1804~30)になると、鶴屋南北や七代目市川團十郎、五代目岩井半四郎など、名狂言作者・役者が次々と輩出、歌舞伎はさらに華やかになりました。役者絵でも「豊国にがほ」といわれた歌川国貞(三代豊国)などが個性的な作風で活躍し活況を呈しました。

江戸の劇画、霊界・魔界のヒーロー武者絵・芝居絵



歌川国芳「相馬の古内裏 滝夜叉姫と大骸骨」

この時代、滝沢馬琴の『椿説弓張月』や『南総里見八犬伝』に代表される、魔界・霊界を織り込んだ奇想天外な冒険ストーリーが大ヒット。それらを題材とした妖怪退治の武者絵や芝居絵がもてはやされ、北斎や国芳らが趣向を凝らした作品に腕をふるいました。

政局風刺・時局パロディ・寓話・諧謔



歌川国芳 「源頼光公館土蜘蛛妖怪図」

水野忠邦による天保の改革は庶民に過酷な犠牲を強いました。彼らの怒りは増幅し、その恨みつらみといった不満を武者絵や役者絵に巧みに織り込み、幕政や世相を強烈に皮肉りました。そこに江戸っ子の反骨精神と、それを代弁した絵師のアイデアを見ることができます。

シャレとユーモア戯画 ・漫画



葛飾北斎 「北斎漫画」第十編

むかしも「漫画」はありました。でもそれは現代の「マンガ」とは異なるものです。江戸時代の漫画といえば 葛飾北斎の『北斎漫画』が代表作。森羅万象、ありとあらゆるものがイラスト集風に描かれており、弟子たちのテキストとしても使われたといわれます。

シャレとユーモア造形の遊び 視覚のマジック絵



歌川芳藤 「子猫寄り集まって親猫になる」

「鳥獣戯画」に代表されるように、古くからの伝統を持つ日本の戯画。浮世絵でも菱川師宣以降さまざまな絵師がこれを手掛けています。幕末の絵師たちも抜群のセンスとアイデアで優れた作品を数多く描き、それらは今も私たちの目を楽しませてくれます。

異国情緒・おらんだごのみ



歌川国長 「新板阿蘭陀浮絵 桑徳海嶋銅人巨像」

未知のモノへの人々の興味やあこがれは、今も昔も変わることはありません。鎖国の時代、まだ見ぬ異国への関心を題材にした浮世絵は、人々の好奇心を満足させたことでしょう。

おらんだごのみ・摺物



獅山 「駱駝ガラス絵額」

摺物とは私的な配り物として作られた非売品の版画浮世絵のことで、その制作に当たっては彫りや摺りに精緻な技巧をこらし、贅がつくされました。

ペリー黒船来航 開国絵・横浜絵



作者不詳 「黒船の図」

嘉永6年(1853)年の黒船来航、安政5年(1858)の日米通商条約締結による横浜港の開港により、欧米の情報が堰を切ったように流入してきました。そして世間の強い関心を背景に、欧米の文物や外国人の姿を題材とした作品が流行することとなりました。

USAI
SHIGE
SADA
OSHI

世情の急激な変化がおとずれた幕末。短期間で大量生産できる浮世絵版画は、報道機能としての役割も重視されるようになりました。有名人の死亡を告知する追善絵(死絵)の出版もその一つで、特に幕末頃から盛んに制作されました。

三代歌川豊国 「歌川広重 追善絵」



江戸のファツシヨン・肉筆画



蹄齋北馬 「拳遊び」

絵師、彫師、摺師の共同作業で行われる版画浮世絵と異なり、絵師が直接描く肉筆浮世絵は、この世に一つだけの貴重なもので絵師の技量が最も問われました。

追善・肖像画

「土田ヒロミのニッポン」

都市化・バブル・新世紀・まつり・ヒロシマ・に見る時代と人々。

平成20年5月2日(金)～25日(日)

主催：福井県立美術館、福井新聞社 共催：南越前町

《イベント報告》

福井県南越前町(旧今庄町)出身の日本を代表する写真家・土田ヒロミの作品の軌跡をとおして、あらためて日本の現代史をみつめ日本人を考える展覧会「土田ヒロミのニッポン」が開催されました。関連企画として「土田ヒロミのギャラリートーク」、「土田ヒロミの写真教室」が行われました。

◎土田ヒロミのギャラリートーク

5月6日(火・祝日) 13:30～／

5月18日(日) 14:00～

展示会場を巡りながら、実際の作品を前に土田氏による解説が行われました。「写真には目の前の現象が写るのではなく、被写体と撮影者との関係が写る」(俗神)。「群集を撮影していると、フツと被写体がカメラを意識しなくなる瞬間が必ず訪れる」(砂を数える)。「東尋坊の写真には、両親の写真を密かに合成してあるのです」(新・砂を数える)。「人の血をなめるように、原爆の悲劇を表現のテーマにしたことには、強い罪の意識がある」(ヒロシマシリーズ)。次々と披露される創作にまつわる興味深いエピソードに、つめかけた観衆は熱心に聞き入っていました。「マイクを使わず、肉声で語りたい」という土田氏の姿勢も印象的でした。

◎土田ヒロミの写真教室

5月6日(火・祝日) 15:00～

美術館ロビーにて

「写真作品を何枚でも持参ください。土田先生が優しくアドバイス。初心者からベテランまで大歓迎!」。このメッセージに大勢の写真愛好家が集まりました。吟味を重ねて選んだ数枚の写真を、おずおずと差し出す人。写真の束を、ドンと机の上に積み上げる人。デジカメを買って数ヶ月の方。プロ顔負けの高級カメラを操るベテラン。さまざまなタイプの生徒が集まりましたが、皆熱心に土田氏のアドバイスに耳を傾けていました。優しく、時にはユーモアを交えつつも辛らつな土田氏の批評には、写真表現を目指す福井の写真家たちへの熱いエールが感じられました。自分の番が終わっても帰らない人が多く、閉館の時間ギリギリまで熱心なやりとりが続きました。



ギャラリートーク「ヒロシマシリーズ」



ギャラリートーク「続・俗神」



ギャラリートーク「新・砂を数える」



ギャラリートーク「新・砂を数える」



土田ヒロミ氏



写真教室

福井県立美術館友の会では会員の方を対象に、春と夏に展覧会鑑賞旅行を実施しています。春は6月4日(水)に京都国立近代美術館の「ルノワール+ルノワール展」と京都文化博物館の「源氏物語千年紀展」を巡る日帰りバスツアーを楽しみました。



「ルノワール+ルノワール展」入り口で談笑中

最初の「ルノワール+ルノワール展」では、1日いないと味わい尽くせないほど中身の濃い充実した展示で眼を潤し、その後の山の自然のなかでの中華料理の



会員イチオシの岩佐又兵衛「浮舟」(福井県立美術館蔵)

フルコースランチで腹も満足、次なる目的地の京都文化博物館に向かいました。しかし予想外の混雑で1時間滞在の予定を待ち時間で食いつぶし、当然のことながら時間を延長して人の背後から絵や書を覗き込むことしばし。ちょうど福井県立美術館所蔵の岩佐又兵衛の「浮舟」が出品されており、「うちもいい作品持つてるんだな〜」「よそで見ると福井県美の作品がとってもよく見えました」などの感想が漏れ聞こえるのと同時に、人の多さに疲れたのか「福井県美

はどんな展覧会でも混んでなくて、ゆっくり見れていいなあ。」「うん、やっぱり福井県美がいいねえ。」等の、職員としては非常にフクザツな感想が聞こえてくるのでした。

人に揉まれ揉まれて4時半となり、体力のすべてを使い果たして帰りのバスの中で動けないでいる美術館職員とは対照的に、「秋はどこ行くの?いつ?」とすでに心は秋の旅行に飛んでいる元気な彼ら76名の平均年齢は67~8歳でした。はたして秋の旅行はいずれに?

詳しくは、県立美術館友の会事務局までお問い合わせください。

【お問い合わせ】 福井県立美術館 友の会事務局 TEL.0776(25)0452

お知らせ

◎8月~11月の休館日について

展示替え、燻蒸、館内メンテナンス等のため、8月1日(金)、25日(月)~9月2日(火)、9月8日(月)、29日(月)、10月6日(月)~9日(木)、20日(月)~23日(木)、11月10日(月)~13日(木)、25日(火)は、休館とさせていただきますのでご了承ください。

貸館情報 [8/2~11/30]

8/2~8/4 ● 尚山水石展	9/11~9/15 ● 第41回福井県学生書道展	11/14~11/16 ● 第27回愿泉書道展
8/6~8/10 ● 第48回ぺんぺん会展	9/12~9/15 ● 川崎玲子「四季の彩り」展	11/14~11/16 ● 第42回彩美会日本画展
8/7~8/10 ● 第3回大東文化大学 福井県人書道展	9/17~9/21 ● 第14回玲風会日本画展	11/18~11/24 ● 石野容三・紀美子絵画展
8/13~8/17 ● EOS福井 第8回写真展	9/17~9/21 ● 第3回墨仙社水墨画展	11/20~11/24 ● 第12回グループ「青い扉」 パステル画展
8/15~8/17 ● 第36回福井県朝日写真展	9/17~9/21 ● 第6回夢美の会& グループY-Wai合同展	11/26~11/30 ● 第2回スプリングアート洋画展
8/22~8/24 ● アトリエ・ターコイズ	9/17~9/21 ● 和紙絵・紙彩画 一鼓動	11/27~11/30 ● “私のあゆみ展 日本画 金谷和枝”
8/22~8/24 ● 第29回書玄会展	9/23~9/28 ● 江守喜代隆 米寿記念洋画展	
9/3~9/7 ● 第9回力カ・斜展	9/25~9/28 ● 第58回福井県勤労者美術展	
9/4~9/7 ● 第49回九龍社書展	9/25~9/28 ● 第23回日本画爽展2008	
9/5~9/7 ● 第4回キルトリーダーズ 福井作品展	10/1~10/5 ● 第19回福井県高等学校総合 文化祭 美術、書道、写真展 特別支援学校作品展	
9/11~9/15 ● 日本墨書会 第31回選抜書道展		

福井県立歴史博物館

福井市大宮2-19-15 TEL.0776-22-4675
休館日:第2・4水曜日 (夏休み中は無休)



リニューアル5周年記念特別展
「昭和の大博覧会」

7月26日(土)～11月3日(祝)

戦前から戦時下、そして戦後の復興と高度成長期をくらしの変化を物語る資料で振り返ります。

一般 400円/高大生 300円/小中学生・70歳以上 200円
※ 30名以上の団体は2割引き

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

福井市安波賀町4-10 TEL. 0776-41-2301
休館日:7月22日(火)～24日(木)、9月8日(月)～10日(水)



「和」の空間～中世の座敷と技術～
7月25日(金)～9月7日(日)

現代の「和」に空間がどのような生い立ちを持つのか、その源流である中世の建物について紹介します。

【記念講演会】

◎日時:8月9日(土) 14:00～ **聴講無料**

◎講師:中村昌生氏

(京都工芸繊維大学名誉教授、福井工業大学名誉教授)

◎演題:「書院から茶室へ」 会場:資料館講堂

【展示解説】 7月26日(土)・8月16日(土)・8月30日(土) 14:00～

一般 400円/高大生300円/小中学生 200円 ※ 30名以上の団体は2割引き ※復原町並との共通券 一般470円

福井市立郷土歴史博物館

福井市宝永3-12-1 TEL.0776-21-0489
休館日:8月1日(金)

夏休み特別企画「みんなで楽しむ博物館」

7月25日(金)～8月31日(日)

いろいろな体験や工作をしながら、ふくいの歴史を楽しまなぼう!

入場無料、ただし有料のイベントあり

福井市美術館 [アートラボふくい]

福井市下馬3-1111 TEL.0776-33-2990
休館日:月曜日(祝日の場合は火曜日)、祝日の翌日

プラモデルパッケージ原画と戦後の日本文化
ボックスアート展 7月19日(土)～8月31日(日)

プラモデルキットの箱に描かれた絵、ボックスアートの原画を紹介する初めての大規模な展覧会。プラモデルという戦後の大衆文化の興味深い一面を紹介します。

一般 900円/高大生600円/小中学生 300円 ※ 20名以上の団体は2割引き

広
報
板

日本まんなか共和国

日本の東西文化の境界にある四県(岐阜、三重、滋賀、福井)が連携し、より効果的な文化活動を行うため、先進的な「日本まんなか共和国」の創造を目指しています。

滋賀県立近代美術館

大津市瀬田南大菅町1740-1 TEL:077-543-2111

ファール昆虫記の世界

7月19日(土)～8月31日(日)

本展は、ファールの直筆論文や著書、デッサンなどの資料と、「昆虫記」の挿図として用いられた写真、挿絵原画によって、ファールの幅広い業績と「昆虫記」の魅力を紹介します。また「昆虫記」に魅せられた作家たちによる絵画や写真、映像作品、そして海洋堂フィギュアミュージアムが制作したオリジナルのジオラマなどを展示いたします。ファールが愛してやまなかった昆虫の世界と、「昆虫記」に触発された美術作品の両方を是非鑑賞下さい。



一般 950(750)円/高大生 650(500)円/小中学生 450(350)円
※()内は前売および20名以上の団体料金

葛飾北斎展

9月13日(土)～10月13日(月・祝)



世界中の人に新鮮な驚きを与え続ける画狂人、葛飾北斎(1760-1849)。創作の原点たる肉筆画から人気の「富嶽三十六景」「北斎漫画」まで、日本美術を再認識させた北斎芸術の魅力を紹介いたします。

岐阜県美術館

岐阜市宇佐4-1-22 TEL:058-271-1313

いま、日本画は
—遠き道 はて無き精進の道程—

7月18日(金)～8月31日(日)

本展では、現在活躍中の若手から中堅を中心に、38人の作家による日本画を展示します。日展、院展、創画展といったそれぞれが所属する団体の公募展に出品された作品や、無所属で個々の場において発表された作品など、大型作品が一堂に会します。多くの方々に、「いまの日本画」を身近に楽しんでいたければ幸いです。



北田健己「夜明けの地」2003年

一般 当日800(700円) 前売600円/
大学生 当日600(500円) 前売400円/高校生以下無料
※()内は、20名以上の団体料金。

いのちのかたち 熊谷守一展

9月12日(金)～10月26日(日)

守一は、身近な風景や生き物の姿を、赤い輪郭線で生き生きと描いた画家です。この展覧会では、初期の代表作である「蠟燭」や「ヤキバナカエリ」など数々の名品とともに、新たに発見された襖絵を加え、郷土ゆかりの画家、熊谷守一の画業をご紹介します。

三重県立美術館

津市大谷町11 TEL:059-227-2100

没後80年 佐伯祐三展

6月29日(日)～8月17日(日)

パリの街角を描いた作品で知られる夭折の画家佐伯祐三(1898-1928)の没後80年を記念して、代表作90余点と佐伯と交流のあった画家たちの作品を紹介いたします。



『リュクサンブール公園』1927年

一般 900(700円)/高・大生 700(500円)/小・中生400(300円)
※()内は、20名以上の団体料金

エントランスホール天井改修工事のため、2008年9月1日(月)から2009年1月3日(土)まで休館いたします。ご迷惑をおかけしますが、ご理解のほどお願い申し上げます。